

今月のことば



「いつも前向きな気持ちで生きる」

中丸 薫

国際情勢

TPPに踊る毒虫たちの宴

かつて自民党内で、郵政民営化が踏み絵となったことがあった。しかし今度のTPP選挙では、日本の自立が従属かという、国家の存亡を賭けたものであることを理解しなくてはならない。誰が欲にまみれ国を売り渡す者が、それを阻止する真の政治家かの踏み絵であるか、私たちが本心に認識する必要がある。いくら候補者が愛国心を謳っても、TPPを推進した時点で、その者は日本を破壊する決断をしたと言っても過言ではない。

TPPに関しては、今年3月に発効した米韓版TPPである「米韓FTA」米韓自由貿易協定」がわかりやすい。その前に、97年に起きた、韓国の通貨危機から説明する必要がある。この時、韓国に介入したIMFは、金融機関の自己資本比率を強引に引き上げた。そのため、銀行は貸し剥がしを余儀なくされ、記録的な倒産と不良資産の増加となった。銀行はさらなる資本増強を必要とし、外資を受け入れた結果、韓国の金融資本は外資に乗っ取られた。一方、暴落した企業株は買い占められ、財閥の解体と再編で、彼らだけが一人勝ちする構造も出来上がった。韓国の主要銀行7行のうち、6行が50%以上の外資率となっている。企業の利益は、高額な配当で株主に吸い上げられ、事実上、韓国は欧米金融資本による植民地となった。これが日韓で行われた「規制緩和」や「構造改革」という名の略奪である。郵政民営化とTPPの影に、竹中平蔵氏がいるのは決して偶然ではない。

では、「米韓FTA」後の韓国はどうか。輸出大国と言われた日本でも、対GDPでは15%以下に留まっている。

しかし韓国の貿易依存度は58%もあり、ウォン高や輸出不振が即経済に直結する。輸出が増えるからと米韓FTAを締結し、EUROともFTAを結んだ韓国の輸出量は、7月の時点で88%も減少した。EU向けでは、上半期だけで16%も減少している。つまり、FTAは輸出に繋がらないのである。一方、関税を撤廃した韓国には、ウォン高もあってあらゆる物品が流入している。特に農作物は歯止めがかからず、韓国の食糧自給率は50%から20%に下がり、崩壊の危機を迎えている。さらに急速に進んだ輸出不振で、20代の47%は就職につけず、人口比率での自殺率は世界となってしまう。

一方、FTA発効から3か月で、ISD訴訟も始まっている。このISD(国際投資家間における訴訟制度)とは、外国企業が不利益を被った場合、「国際投資紛争解決センター」に訴えることができる制度を指す。このセンターは、国際司法裁判所のように聞かえるが、実は米国にある世界銀行の傘下であり、世銀の総裁は、代々米国企業の社長が就任する完全な米国機関なのである。もちろん、「外国企業を差別から守る」という名目上、当事国である韓国の法律は一切適応されない。

この訴訟は、米国のローンスターという投資ファンド会社によって起こされた。彼らは破綻寸前のKEB(韓国外換銀行)を安値で買い取り、大量のリストラで帳簿上黒字化した。そして、約3000億円で売却しようとした直前、検察によって止められた。結局売却はされたが、この間株価は下落し、その時の損害を政府に賠償させるためにISD訴訟が起された。現在、韓国政府はISD条項について米国と再協議を求めているが、一度発効された条約は覆ることはない。

このようにことが起こっても、TPP推進派は、内容もわからずに推進し

ている。TPPの協議内容は、米議会にさえ報告されずに行われているのである。しかし今年の6月、その協定案の一部がリークされた。それによると、「ISD訴訟が可能」であることと、各国の「国産品に対する優遇も禁止する」と明記されていた。

先日の研修会で、米国での入院体験を話していただいた方がいたので、ご紹介したい。この方の娘さんが40度もの熱を出し病院に行ったが、処方されたのは、薬局で購入したアスピリンのみであった。高熱は下がらず、やがて娘さんの心臓は止まり救急車で運ばれる事態にまでなった。しかし診断では、肺炎と心肺停止は無関係とされ、日に度の触診のみで10日間の入院が過ぎた。そして、医者が下した最終結論は、心臓に、ペースメーカーを入れることであった。娘さんはすぐさま退院したが、届いた請求書を見て愕然とした。まず救急車で1000ドル、そして、入院と診断の合計が、日本円で2000万円という途方もない請求書が届いたからである。

TPPが発効されれば、欧米の医療ビジネスが進み、高額報酬が日常となる。なぜなら、日本の医療は不当に安く、自分たちは不利益を被っている。と訴えることができるからである。その結果、国民は安価なサービスが受けられなくなり、国民皆保険制度も破壊される。この宮利至上主義は、全ての業界で拡がってゆく。

例えば、外国企業による広大な土地の売買や、水源の取水量を制限することもできなくなり、鉱業採掘権も自由化される。私が住む広島は、地産地消をとっても大切にしているが、それは同時に、他国の農作物を排除する行為と見なされる。その結果、地元食材を積極的に扱う学校の給食や、各地の特産品の宣伝もできなくなる。また、不妊や発癌性は伏せられ

たまま、遺伝子組み換え食品の表示は廃止される。このように「食」についても、作物の生産や売買だけでなく、農業や添加物の大幅緩和から、国内での遺伝子組み換え作物の拡散、水源維持や山村維持など、「食」以外の広範囲に渡る話となる。今まで地域で培われた共生的価値観が、他国の思惑で合法的に変えられてゆくのである。現在、米自動車協会は、日本国内のシェアが低いとし、軽自動車の規格そのものを廃止するよう求めている。保険分野では、政府の郵政関与が米保険業界の参入を阻害するとし、牛肉分野では、狂牛病の規制緩和を求めている。これら目に余る要求は、TPP発効で通される可能性が高い。

確かに国としての米国は、日本への輸出目的でTPPを推進している。しかし闇の勢力は違つ。彼らの出先機関である金融、メディア、医療、保険、農業、食品業界は、訴訟を通じて業界を掌握する機会を望んでいる。つまり、TPPとは日本国憲法の上書きなのである。農業ばかりが問題視されるが、伝統や文化を含む国内法全てが、他国の訴訟の繰り返して書き換えられることを意味している。従って、TPPを推進するということは、日本の文化と国権を率先して米国に譲渡する以外、何物でもないのである。

TPPや原発再稼働は、政府が国民をないがしろにし、権力にひれ伏すことを露呈した。その結果、今まで政治に疎い人々も立ち上がり、皆が一致団結するきっかけにもなった。忘れないうちにいただきたい。私たちは有権者なのである。そして、その権利を行使する機会を得た。「原発、増税、TPP」に反対する候補者は、決してメディアに登場することはない。入れる党がないと諦める前に、正義を貫くこと、勇敢な候補者を探し出すことから、私たちが有権者の責任は始まっている。

アセンションを超えて

2012年12月22日。私たちはよいよアセンションという節目を迎え、地球はフォトンベルトに突入する。このフォトンとは、英語で「光子」と訳されるが、言うならば光のエネルギーである。宇宙には、この光子からなる巨大なフォトンベルトが存在し、2万6000年かけて銀河を一周している。そして、そのフォトンベルトに地球が入るのが、12月22日なのである。地球がフォトンベルトのヌルというところを通過する時、太陽も星も見えなくなり、電磁波の影響で電気も使えなくなる。そして、私たちは肉体を持ったまま、3次元から5次元の世界へと移行する。この期間は3日3晩続くと言われるが、宇宙連合のクエンティンさんによれば、人々の覚醒次第でももう少し短くなると言っていた。しかし、12月という寒い時期なので、そのための準備が必要となる。石油ストーブやカイロはもちろん、カセットコンロや懐中電灯、水や食料など、非常時の備えとして家族分は用意しておいた方がよい。もし停電にならなければ幸いだが、異常が起ることを前もって知っているのと知らないのでは、心の準備も大きく違ってくる。

このアセンションによつて、宇宙から膨大な光のエネルギーが降り注ぐことになるが、その影響はかなり個人差がある。一人ひとりがかくかくらい浄化しているかにもよるが、それは体を原子レベルから変成させ、DNAの進化を促すと言われている。通過中は、人によつては気分が悪くなったり、失神してしまうことも予想される。また、電気が使えなくなるので、原発への影響を心配される方もいるだろう。クエンティンさんによれば、もしそういう不測の事態になった場合、地球の周りに待機する宇宙船が、空中携帯で人々を救い出すということであった。そして通過後は、病気になる健康体になつたり、突然趣味や人生観が変わつたり、特殊な技能を発達させる人も現れるようになる。

交友録

シャリー・マクレーンの自宅はニューヨークのイーストサイドにあつた。約束に少し遅れて現れた彼女は、上下黒のレオタード姿で現れた。ジムに行つたの」という彼女の汗びっしょりの姿からは、夢をつかんだ女性がさらなる極みに向けて努力する日常が垣間見えた。

シャリー・マクレーン(女優) 一九三四年

最初に彼女に出会つたのは一九七〇年代始めであつたが、彼女はすでにスターへの階段を昇り始めていた。彼女の自伝である「Don't Fail Off The Mountain」風を追いかけてには、女優を夢見た少女時代から、スターへの道のり、そしてインド、アフリカ、日本、ブータンへの旅が綴られていた。スターへの道のりを支えた夫とは、その時すでに別居していたが、二人とも日本が大好きで、愛娘には「サチ」という名前をつけていた。「主人の前世は休さんでね。私はその恋人だったのよ」



シャリー・マクレーン氏と中丸薫

彼女は屈託のない笑顔で、そんなふうに自分を紹介した。まだかつて数分しか経たないというのに、私たちは輪廻の話に花を咲かせていたのである。私のインスピレーションでは、彼女とは15世紀の英国で縁があつたことを感じた。

皆さんも幼い頃、虫眼鏡で紙を焼く実験をしたことがあるだろう。一人ひとり小さくとも、それが集まると巨大なレンズになる。そして陽の光を集めると、紙を焼く力となり得ることを。光が集えば、闇をも焦がす。私たちは、すでにこの原理を学んでいたのである。そして今、まさに21世紀のルネッサンスとも言える革命が、地球規模で始まるつていっている。

Information

《中丸薫 最新刊発売のお知らせ》

11月15日、あ・うんより『M9.0 東京直撃の日』が発売されました。

2012年12月22日、アセンションを迎え、みなさんの心に光が差し、愛と光のネットワークからメッセージが届いた時、心は開かれ、「日本から世界が変わる」のです。

【内容】◆これから首都圏を襲う巨大地震 ◆日本が繰り返す「天変地異」に襲われる理由 ◆アセンション後を「魂感覚」でサバイバル ◆2013年に歴史は大きく軸先を動かすなど。



定価 税込み1,365円

《中丸薫 最新刊発売のお知らせ》

11月30日、徳間書店より『闇の世界は終わり、光の世界が始まる』が発売されました。

2012年のマヤ暦の終わりは、闇の権力の力がここを境に衰亡していくことをも意味している。そして、新たな光の世界をつくっていくのは、私たち日本人なのです。

【内容】◆闇の時代の終わりに出現してくる悪夢 ◆闇の権力に狙われ続けている日本 ◆崩壊過程に入ったアメリカの世界覇権 ◆私たちの愛の力で闇の権力支配を終わらせるなど。



定価 税込み1,680円